

一般質問

今定例会の一般質問には澤田信男、門脇健郎、田口勝次、高久昭二、藤原万正、安藤武、小田嶋忠の七人が登壇した。

「算額の角館小学校への展示」「地域医療確保」「本庁舎建設の意見交換」「大曲養護学校の分校誘致」「定額給付金の実施内容」「学校給食施設整備」「福祉施設の民間委託」等について当局の考えを質した。

「算額」を角館小学校で展示できないか 掲示を検討したい



沢田信男

質問 旧西長野小学校額は、閉校と同時に所有する西長野熊堂神社にお返しされたが、この算額は、大変に貴重なもので、先人の勉学に対する強い思いや熱意を伝えるためには、角館小学校において引き続き展示すべきと考えられるがどうか。

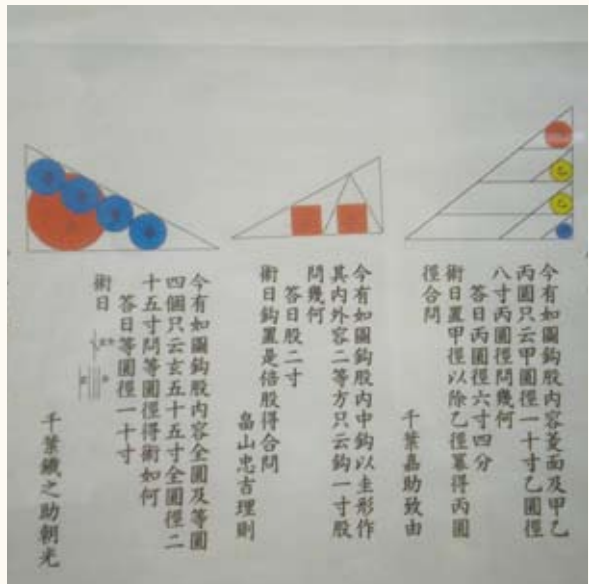
算額の意義については十分理解しているのですが、今後地域並びに神社関係者の意見意向をお聞きして、角館小学校での掲示を検討したい。

答弁 旧西長野小学校において算額を掲示していたというところは、地域の方々や子供達にとって意義のあったことと認識しているが、閉校時に取り扱いについて協議をしたところ、神社にお返しをすべきとの意見から現在は所有する西長野熊堂神社にお返ししている。

予防医療の観点から、現在死亡原因の第四位である肺炎について、高齢者への肺炎の予防接種は医療費の増加を防ぐ手立てとして有効なものと考えているが、予防ワクチンの接種費用の助成の考えはないのか。

答弁 肺炎については、高齢者ほど死亡原因に占める割合の高い病気で、体の抵抗力が弱くなればかかりやすい病気と認識している。

肺炎の予防接種についてその効果は有効であることも承知しているが、他の病気との兼ね合いなどについて医師の方々などから意見を聞き、他の自治体の実施状況、その効果など情報収集し、前向きに今後検討していきたいと考えている。



社に奉納されている「算額」のレプリカ

急がれる医師の確保

地域医療は命に関わる



門脇健郎

要性などを判断する統一した管理部署が必要と考えている。
維持管理について、営繕計画などを立てて進めて一括管理をする営繕係の設置について前向きに検討して行く。

であり、仙北市の医療にとっても必要不可欠なことと認識している。
特に田沢湖病院の救急対応は指摘の通り、基本的には医師を確保して早期に救急体制を再開したいという考えである。実情は医師不足から過重労働が生じ、医師が引き上げるといふ状態が続いているのがこれまでの経過である。

質問 一日も早く医師の確保をして、田沢湖病院の救急業務を再開しなければならぬと思う。これは市民の命に関わる問題であり、観光客にとってもあるいはイベント、災害時の対応も考えると仙北市の大きな課題である。この問題について当局は、もっと危機感を持って取り組むべき問題と思う。

市立病院改革推進計画策定委員会の考えでなく、石黒市長自身の率直な考えを聞きたい。
市としては策定委員会の意見を集約して、現状を踏まえながら、仙北市のあるべき姿を求めたい。

質問 内陸線存続については、沿線住民はもとより、市民の多くが歓迎しているものと思う。市長はじめ関係機関の努力の賜物である。しかし本番はこれからであり、乗車運動をどのように進めるかが課題となる

答弁 地域医療の充実には命に関わる問題

は命に関わる問題